

第21号

町自連まつえ

平成30年3月31日発行 発行／松江市町内会・自治会連合会

いあいさつ

松江市町内会・自治会連合会

会長 寺本修己



今年度の総会におきまして、会長に就任いたしました、美保関町自治会、美保関町自治会の寺本でございます。

重責を務めて数ヶ月、改めてこの町内会・自治会連合会が市民の安全安心はもとより、大げさに言えば全ての生活にかかわる組織であると気づかされ、これまでに以上に地域に寄り添った活動を目指

さねばと考えております。

一方、国内の状況は、長い間続いたデフレマインドをようやく脱しかけている、いやまだまだではないか等々色々なことを言われています。しかし少しずつであり、すが明るい兆しが見えてきていると私は、考えたいと思っております。一方、朝鮮半島情勢を顧みますと終わりの見えない核実験、ミサイル発射など日本にとって大きな脅威を抱かされる出来事が起きています。また、国内あちこちにおいて自然災害における被害状況は目を覆うものがあります。私達町内会・自治会連合会は二十九ブロックの連合組織を持ち、およそ九百の単位自治会があります。その全てにおいて独自の活動を展開しておりますが、自治会の運

もを産み育てやすい環境作り、各地域の特性を活かした雇用の場の創出など、松江に住んでみたい、住み続けたい、戻ってきた

いと思っただけのようなまちづくりを、共創・協働の理念のもと、市民の皆様や地域、企業など中海・宍道湖・大山圏域全体で一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

松江市長挨拶

松浦正敬



町内会・自治会、そして市民の皆様方には、日頃より松江市政に対してご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、松江市は、身近な市民サービスをさらに向上させ、住みやすさを高めていくために、四月に中核市に移行し、これまで県が担っていた、保健所をはじめとする市民に身近な福祉や医療、環境などの政策を強力に進めていくこととしております。

また、松江市総合計画に基づいて「選ばれるまち 松江」を実現するため、子ども

こうした取り組みを進めていく中で、昨年末には、私たちが暮らすこの豊かな自然と歴史を有するこの地域が「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」に認定され、本年は「不昧公二百年祭」、来年は「ホーランエンヤ」の開催など、松江の魅力を知っていただく大きなチャンスとしてさらに取り組みを進めていきたいと考えております。一方で、各町内会・自治会等におかれましては、自主防災や地域の見守り・助け合いをはじめとする地域活動に積極的に取

営はやはり全市民に町内会・自治会へ加入していただき、地域の安全安心はもとよりの活動を通して、お互いが顔見知りになり、気心の知れた関係を作ること、より活性化されるものと考えております。

現在の問題は、自治会加入率が少しずつ低下していることや自治会役員の担い手不足、高齢化などです。これからも皆様にご協力をいただき加入率を上げるとともに、会の活動に積極的に参加をいただき、地域力の発展に尽力いただけることをお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。ごあいさつと致します。

り組んでいただいているところでございますが、昨年、川津地区では、高齢者の独居世帯が増える中、新聞の販売所と民生児童委員協議会、社会福祉協議会、公民館が連携し、毎日届く新聞の配達網を活用し、高齢者世帯の見守りを実施されるなど、地域の安心・安全に向け取り組まれました。このことは、市民にとっても地域にとっても大変喜ばしいことと存じます。

こうした町内会・自治会や市民の皆様の日頃からの取り組みは「地方創生」にあって、なくてはならないものであり、引き続きの活動の推進をお願いするものがございます。市といたしましても町自連の皆様様の活動の支援を引き続き行っていきたいと考えておりますので、今後とも、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

松江市内会・自治会連合会はこれからも様々な課題に取り組みますのでよろしくお願いたします。

(平成二十九年度役員一同)



会長
寺本 修己
(美保関地区)



常任理事
松浦 正明
(東出雲地区)



理事
安部 吉輝
(八束地区)



理事
梶谷 均
(宍道地区)



副会長
熊谷 和恭
(古志原地区)



常任理事
井上 寛巳
(持田地区)



理事
野津 厚
(生馬地区)



理事
松浦 哲次
(朝酌地区)



副会長
勝部 廣三
(玉湯地区)



常任理事
花谷 耕三
(古江地区)



理事
吉岡 繁春
(秋鹿地区)



理事
村島 勲
(大庭地区)



副会長
小數賀安富
(法吉地区)



監事
大野 美雄
(城北地区)



理事
竹内 保雄
(雑賀地区)



理事
岩成 貞幸
(大野地区)



副会長
亀城 幸平
(鹿島地区)



監事
松本 光弘
(朝日地区)



理事
森 正剛
(津田地区)



理事
中島 秀夫
(川津地区)



常任理事
松浦 久義
(忌部地区)



理事
藤原 二郎
(島根地区)



理事
折田 昌弘
(城西地区)



理事
林 繁幸
(八雲地区)



常任理事
今井 隆良
(白潟地区)



理事
月坂 守保
(本庄地区)



理事
中西 正昭
(城東地区)



理事
角田 一雄
(竹矢地区)

視察研修の受入

愛知県大口町区長会

十月三十一日、姉妹都市である大口町区長会から、十一名の区長が来松されました。

受入側は、町自連会長、副会長、行政からは市民生活相談課が対応しました。

研修内容は「町自連の概要と各地区の活動状況について」で、事務局から町自連の概要を説明し、会長、副会長から各地区の活動状況を説明しました。

(事務局)



平成二十九年年度視察研修

大阪・京都の
防災関係施設を視察

十一月九日の早朝に、バスで松江市を出発し、午後から「大阪市阿倍野防災センター」を見学しました。

この施設は、火災や地震を疑似体験し、避難や救助を子供から大人まで体験学習できる防災学習施設です。

最初に南海トラフ巨大地震で津波に襲われる大阪を大型スクリーンで見て、次に大地震が起きた際に火元となる電気・ガス器具の消火を真っ先に行うことや、停電した暗闇の部屋からの脱出。消火器を使った消火や、家具の下敷きになった人をジャッキで救出する方法。最後に阪神淡路大地震規模の直下型地震の揺れを体験し、火災や地震発生時に個人が行う行動の基本を再確認することができました。



翌日は、朝の交通渋滞を心配しながら大阪から京都に向かい、途中駆け足で清水寺を参拝してから、伏見消防署を訪ねました。

そこでは、京都市が、小学校区ごとに組織した自主防災組織の仕組みと伏見区の自主防災組織の活動や訓練の様子を聞いてから、地元の深草学区自主防災の会長さん、役員さんと意見交換しました。

伏見区の特徴として、防災会が独自に避難所運営の詳細なルールを定め、毎年、避難所を使った訓練を住民が実際に体験し、防災「ふかくさ」という会報を発行して、訓練の様子や課題を住民に知らせるなど、自治会と防災会が一体となった活動が説明されました。京都市は、大都市特有の市外からの転入者が多いため、自治会への加入促進をどう進めるかについての悩みが報告され、松江市の取組みについて意見交換しました。

(視察研修プロジェクト)
勝部廣三、亀城幸平、松浦久義、
今井隆良、松浦正明

平成二十九年年度視察研修

加入促進先進地視察

大分市

一月二十五日早朝、白一色の松江市

から、特急「おき」にて、関係者五人は、山陰線を経由して九州の大分市に向かいました。

大分市の人口は約四十八万人、世帯数は約二十二万で、自治会加入率は、八十八%台を推移しています。この高い加入率は地区住民の協働意識が高いことによるものと思われれます。

自治委員制度があり、自治委員は市民の便益及び市政の円滑な運営を図るために、管轄区域(自治区)内の成年男女の総意に基づいて選出された人を市長が非常勤特別職の公務員として委嘱し、市民と行政をつなぐ重要なパイプ役としての役割を担っています。

自治会活動活性化・市民協働を行政が踏み込んでいくべきとの考えにより「大分自治会サポート庁内連絡会議」を立ち上げ、各部長・課長・職員・自治委員により構成されています。

自治委員の任期は、二年以上が多いため地域の課題がよくわかり、協働の効率も高められます。

自治会加入促進については、若年層とりわけ小・中学生の参加を促し、地域社会への帰属意識を高めるとともに、その保護者・祖父母の参加があり、地域活動への参加者を増やす効果が期待できます。

別府市

人口は約十一万九千人、世帯数は約六千二百で、自治会加入率は、昨年七



十五%を記録するものの、県内では下位となっています。この高い加入率は、日本有数の温泉観光地で地区住民の協働意識が非常に高いからと思われれます。大分と同じく自治委員制度があり、報酬が支給されています。自治会活動活性化・市民協働に行政が踏み込んで参加するのは大分市と同じです。

自治会加入促進策の一つとして、各地区に、畳一畳分の行政の掲示版を用意し、積極的に情報提供が行われています。大学生、外国人留学生には、自治会の催し物(祭り、運動会など)に準備作業から打ち上げまで参加してもらい交流を図っておられます。

市の対策の一環として、七十歳以上を対象に、市営温泉の無料券を配布されています。自主防災については、合同で防災訓練を行った隊に対し、五万円を支援されています。

やはり、「自治会活動の活性化」「市民協働のまちづくり」は、行政がもっと踏み込み、自治会と一体となって取り込むことだと思いました。

(加入促進プロジェクト)
小数量安富、大野美雄、井上寛巳、花谷耕三、森正剛、仙田一吉

第十回松江市三団体合同研修会

松江市の観光誘客について

二月二日(金)「松江市公民館長会」「松江市町内会・自治会連合会」「松江市地区社会福祉協議会会長会」の合同研修会が開催されました。

今回は「松江市の観光誘客について」と題して、松浦正敬市長のご講演を拝聴しました。その後、「地域観光を利用した高齢者生きがい事業企画」「地域観光を利用した若者に望む事業企画」について参加者八十七名が九班に分かれてワークショップを行いました。

講演内容

- ① 旅行消費額と経済効果
- ② 旅行・観光消費の生産波及効果
- ③ 観光分野の現状
- ④ 広域連携
- ⑤ 山陰・ステーションキャンペーン
- ⑥ 中海・宍道湖・大山圏域の魅力
- ⑦ 広島からの誘客(外国人向けのワ

- ⑧ インバウンド観光の重点市場(東南アジア市場への期待)
- ⑨ 不味公二百年祭
- ⑩ 伝統ホーランエンヤ
- ⑪ 世界シニアバスケットボール大会
- ⑫ 松江大会
- ⑬ 宿泊客二百五十万人の達成

ワークショップ

- 高齢者生きがい事業企画について
 - ① 高齢者の技術・知恵を生かす
 - ② 伝統・歴史・社寺仏閣・ジオパーク等の有償ボランティア
 - ③ 体験学習等のインストラクター
 - ④ 語り部養成
 - ⑤ 地域の特産品、伝統食の復活
 - 若者に望む事業企画について
 - ① 若者のセンス、IT技術、
 - ② 若者の感性でのおもてなし
 - ③ 外国人向けのガイドブック
 - ④ 若者の目で見えた地域の自慢をSNSで発信
 - ⑤ 地域の歴史・文化・伝統、四季折々の料理等を一緒に体験
 - ⑥ 交流・体験の場としてのイベントの立案、企画、実行
 - ⑦ 美保関から松江市西端まで、島根半島をめぐる遊歩道の整備
- 松江市の観光振興のキーポイントは「歴史・伝統・文化」に加え「地理的財産」を活用し「おもてなしの心」で、

体験、交流を図り、松江の魅力を全国に発信することだと思いました。そして、観光振興を契機に高齢者、若者の地域参画を推進することで、郷土愛が更に深まり、地域の活力につながっていくものと思いました。

松江市の二十九公民館区は、歴史、文化等の取り巻く環境がそれぞれ違う中で、どのような取り組みができるのか。市の施策である「まち・ひと・しごと創生、人口ビジョン、第一次総合戦略」の実現のため地域としてどのようなことができるのかを改めて考える機会となりました。

現在、日本中が「地域創生」で知恵比べをしている最中です。その中で、今回の研修会は、真の得た企画であったように思いました。



(事業担当者) 亀城幸平、今井隆良、花谷耕三

編集後記

例年はない寒波の襲来で、白一色の嫁が島を横目に見ながら「町自連まつえ」の編集作業に取りかかりました。

今年も、松江市町内会・自治会の大きな課題である自治会加入促進の対応策として、二つの事業を実施しました。一つは、対策プロジェクトチームが先進地域である大分、別府を視察し、その現状を学習しました。

二つ目は、自治会の意義、活動内容を多くの方々に広く理解してもらうことを目的に、山陰中央新聞に広告を掲載しました。十二月二十七日付の新聞で全紙の三分の二を使い、松江市町自連の沿革、地域の交流・安全安心・人材育成、について紹介しました。

このような背景で、例年一月一日に発行している「町自連まつえ」は年度末の総括として、三月三十一日発行となりました。さらに経費のこともあり、各戸配布から回覧方式に変えました。内容は、例年通りですが、前述の自治会加入に関する視察が加わりました。本紙に関するご感想、ご意見など、お寄せ頂ければ幸いです。

(編集) 「町自連まつえ」広報担当
熊谷和恭・松本光弘
町自連事務局 五五五―五六一六九
(松江市市民生活相談課内)